

政界から礼賛に危機感

絶望と苦悩の果て 安倍元首相銃撃公判

11月13日、奈良地裁の法廷で、安倍晋三元首相のビデオメッセージが大画面で再生されました。

2021年9月に統一協会の関連団体「天宙平和連合」が開いたイベントで、安倍氏が「韓鶴子（ハン・ハクチャ）総裁をはじめ、みなさまに敬意を表します」と称賛する内容です。検察側は「政治家がさまざまな団体に出している一般的なメッセージ」と同様の認識を示しましたが、ビデオメッセージを視聴した山上徹也被告は「問題がない団体と認知されてしまう」と困惑しました。協会が社会的に承認されることへの「絶望と危機感」を抱いたのです。

絶望的な気持ち

証人尋問で「全国霊感商対策弁護士連絡会」の神谷慎一弁護士は、生活をめちゃくちゃにした協会を安倍氏が礼賛したことで、信者2世は「ずっと被害が続く」「救われない」という絶望的な気持ちになったと推察

しました。安倍氏の国会事務所は、弁護士らの抗議文を受け取らなかったといっています。

22年7月8日、山上被告は奈良市の近鉄大和西大寺駅前街頭演説中の安倍氏に近づき、手製パイプ銃で弾丸を発射。2発目が安倍氏の上半身に当たり、一瞬にして命を奪いました。統一協会に打撃を与えたい一心で、当初は韓総裁らの襲撃を計画していた山上被告。銃の製造を始めたのは20年12月で、事件の前日には協会の施設「平城家庭教会」が入る奈良市内のビルに発砲していました。

山上被告の妹は、安倍氏が銃撃されたと知って「不思議では

ずっと被害が続く

なかった」と証言しました。安倍氏が表紙になった協会系の機関誌を母親の部屋で見つけ、選挙で信者から「自民党の特定の候補者」に投票する依頼もあったと明かします。

被害への「報復」

山上被告にとつての「本来の敵」は統一協会で、政治的には安倍氏を支持していました。それでも「日本において協会に最も影響力を持つ政治家」である安倍氏のことは頭の片隅にあり、自身の家族が受けた被害への「報復」として銃撃を実行したと語りました。

14回目の公判で、山上被告は「自分に弁解の余地はないと思っています。非常に申し訳ないことをした」と遺族に謝罪しました。自身の「責任の重さ」にも言及し、殺害について「間違っていたと思う」と述べました。

母親の高額献金と破産、兄の暴力と自死、生活困窮を経験した山上被告の妹は、涙で声を詰まらせながら次のように訴えました。

「私たちにはどうすることもできなかった。事件は徹也の絶望と苦悩の果てに起きた」

検察側は18日、短絡的かつ自己中心的な犯行動機で「人命軽視も甚だしい」と悪質性や危険性を強調し、山上被告に無期懲役を求刑しました。判決は来年1月21日に言い渡されます。

（おわり）



安倍晋三元首相の写真が何度も表紙に使われた統一協会系の月刊誌『世界思想』